

教科目名 プロジェクト演習 (Projected Exercise IV)

学科名・学年 : 全専攻 2年

単位数など : 選択 1単位 (前期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教官 : 高橋 徹・一宮一夫・嶋田浩和・相本正吾・軽部 周

授業の概要		
特別研究の遂行には、論文作成能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力などが必須である。この教科では縮約練習などにより、論文作成の際に役立つ論理的な思考法や文章構成法を習得する。更に、実践的なディベート方式の授業により、プレゼンテーション能力・ディスカッション能力を高め、主体的に行動できる学生を養成する。		
到達目標		大分高専目標 (C1), JABEE 目標 (f)
(1) 縮約練習を通し、日本語による文章構成法を習得する。 (2) 文章のパラグラフ化を理解し、論文を論理的に構成する力を要請する。 (3) 口頭発表力・討議などのコミュニケーション能力を高める。 (4) 漢字・送り仮名など、日本語の基本について再確認する。		
回	授 業 項 目	内 容
1	[日本語表現] 「日本語練習帳」の解説, 縮約練習の説明	教科書「日本語練習帳」の内容を理解する。特に、文章の構成力を身につける上で役立つ「縮約」技術の練習法について学ぶ。
2~6	縮約練習, 解説	新聞の社説など、与えられた文章について縮約を行う。縮約した文章は教官によって評価される。毎回、100点満点中80点以上を取ることが望ましい。
7	小テスト	縮約、漢字書き取りなどについて小テストを行う。
8	「理科系の作文技術」の解説	教科書「理科系の作文技術」の内容に触れる。文章のパラグラフ化について学習する。
9	[プレゼンテーションおよびディベート] グループ分け, 資料収集	与えられた2つのテーマについてプレゼンテーションおよびディベートを行う。学生はA~Dの4班に分かれ、テーマ1についてAとBが、テーマ2についてCとDがそれぞれ賛成派・反対派の立場となりプレゼンテーションおよびディベートを行う。ディベートの判定は、教官およびディベートに参加していない班の学生によって行われる。 また、8~13回まで授業の最初に縮約練習をする。
10,11	賛成派・反対派の決定, 作戦会議, プレゼンテーション作成	
12	テーマ1についてプレゼン, ディベート	
13	テーマ2についてプレゼン, ディベート	
14	前期期末試験	小論文など
15	前期期末試験の解説	採点結果を点検・理解し、より良い文章が書けるようにする。
履修上の注意		
縮約練習をする上で必要な国語辞典などを用意すること。		
教科書		大野 晋, 「日本語練習帳」, 岩波書店・木下是雄, 「理科系の作文技術」, 中央公論新社。
参考図書		
関連科目		日本語表現法, 卒業研究, 特別研究
評価方法		授業中の小テスト・縮約練習結果・取り組み状況(約70%)と期末テスト(約30%)により総合評価する。